

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者スタッフはグループホームの社会的役割を理解しており「その人らしく たのしく しあわせに」という理念を掲げて取り組んでいる。	その人らしさ、楽しさ、幸せは時とともに変化していくものの為、一人一人を生活者として捉え、変化していく本人と理念について取り組んでいきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念をホーム内に提示しそれをもとに介護理念、毎月のユニットの目標を全スタッフで設定し、全スタッフが理解できるよう取り組んでいる。	今後も利用者の為にスタッフ個人目標を設定し、実践、評価しステップアップしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内に理念を掲示し、パンフレット等に明示し、入居者及び家族に説明している。平成18年11月より運営推進委員会を設置しており、町内会、民生委員等が参加している。会議の中でパンフレット等によりホームの役割、理念を周知し、ホームの広報を閲覧、説明することにより理解が得られるよう取り組んでいる。	本人、家族へのサービス説明時に意識して伝えていき、会議資料への掲載も検討したい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	玄関に「気軽にお立ち寄り下さい」という貼り紙をし、地域の方が立ち寄ってもらえるよう雰囲気を作り、お花、腹話術、音楽ボランティア等が定期的にホームに訪問しており、近隣の中学生、大学生の職場体験なども含めたボランティアを受け入れており、認知症に関し専門的知識のあるスタッフ(精神保健福祉士)のより認知症に関する相談に応じている。外部の方を受け入れる際は、ボランティアの心得を記載した物を配布し、説明し、利用者のプライバシーに配慮している。	これからも今以上に地域の行事に参加し、こちらの行事は、広報、口コミを通じて町内会長、民生委員等に伝え広めていけるように働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価を共に取り組み第三者視点の外部評価を資源として活かし、昨年度の改善項目は実践されている。	取組まれている
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では自己評価の結果、外部評価の結果を公表し意見交換が行なわれている。家族へも資料を配布している。	取組まれている
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括担当者に、運営推進会議以外の連携の場面等を具体的に提案し地域包括で検討中。	今後も具体案を説明し実行していく。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修参加により理解を深めている。	権利擁護そのものの理解だけでなく、権利擁護は福祉の歴史に存在した物であり、抵抗概念であるといった側面等も理解し、活用していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加により理解を深めている。	身体、心理、性、経済、ネグレクトの虐待の定義、関連法、虐待のサインからの防止、対処方法、報告の流れだけでなく、加害・被害者の生活、社会的環境等もみつめ防止していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、社会福祉士等が、本人、家族のわかる言葉等（話の強弱、テンポ、メラビアン ^① の法則）を使い、本人、家族のワーカビリティの向上をねらい、その上で同意を得ている。	取組まれている
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見等は、職員の間で話し合いの場を設け、運営に反映させている。利用者のそばに寄り添う時間を意識して設け、意見等言いやすいよう雰囲気作りをしている。	意見、不満、苦情の言ってもらえる雰囲気作りを行っている。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会、料金支払い等で家族来所時に、その度報告している。	サービス内容に変化があった時は、報告、同意を得ている。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の苦情受付窓口及び、担当職員、外部の苦情受付機関の連絡先を、重要事項説明書に明記し、玄関入り口付近に意見箱を設置している。	面会時に、近況のこと、希望、要望について伺っている。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見は反映させている。	意見は反映させている。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1階2階ユニット間での補助、休日の職員の確保などスタッフの理解を得ている。	緊急連絡網をホームに掲示しており緊急時の対応にあたっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置は事前回覧、紹介を行い理解を得ている。引継ぎも詳細に行なっている。		取り組まれている
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は、受け入れ時は、評価項目があり1週間、1ヶ月、3ヶ月で評価、面接をし、ホームに根付く職員作りをしている。研修参加後は、伝達研修を行い報告会を実施。		スタッフも目標を持ち研修をより身のあるものにしていく。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへの見学、他ホームからの見学を受け入れ交流を図れるようにしている。		併設ホーム、近隣ホームとの交流会を考えている。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間、場所を確保出来ている。職員の提案、想いを形に出来るようなシステム作りをしている。職場以外での交流も深めている。		精神保健福祉士によるストレスマネジメントの内部研修等していく。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	病欠後、職員復帰、家庭環境に配慮したシステム作りをし、やりがいのある働きやすい環境作りをしている。		取り組まれている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	インテーク場面にて、社会福祉士等が本人と家族と面接の中で、それぞれの想いを受け入れるのではなく受け止めている。	取組まれている
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを表面化し、目標の明確化をし、それを達成する為に何をするか本人、家族がわかるメニュー（サービスも含め）を提示し、伴にサービス等に取り組んでいる。	取組まれている
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	インテーク段階から、アセスメントし、本人、家族の希望を盛り込んだ上で、予測できる雰囲気などに対する不安、心配については話し合っている。その度に表面化する不安には、本人と家族を交え相談を持ちかけたり、のる場面を設定している。	取組まれている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の喜怒哀楽を本人の力として捉え、本人自身の生活の役に立てて頂いている。	寄り添うケアについて理解を深める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は本人を支えていく重要な存在として、家族の喜怒哀楽は直接本人と関わる為、ともにさせて頂き、その感情を力の源とし、本人のために役立てたり、信頼関係構築のきっかけにさせて頂いている。		取組まれている
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係、双方の思いを受け止め、お互いの役割を育てる働きかけをしている。		取組まれている
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生まれ育った土地で、その中でも行きたい所、墓参り等へ出かけたり、本人・家族との手紙、電話のやりとりを継続できるよう支援している。		これからも本人、家族の同意を得た上で、知人等からも情報提供を頂き、本人を捉え、地域の中で生活している実感を継続して頂く。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が共に得意なことは、共に行なったり補助しあえるよう働きかけている。		今後も、一人一人の個性を捉えた上で利用者同士が家族として、安心、安楽に過ごして頂く。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も高齢者福祉部門での地域の窓口として、支援に応じることを家族に示している。		取組まれている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向等が十分に把握できない場合は、全職員が入居者の視点に立ちサイン等を発見したら、情報交換により共有し、意向等を把握している。	担当職員によるセンター方式を作ったアセスメントをする。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に了承を得て、プライバシーに十分に配慮しながら、面接を通して、本人、家族、知人等から情報収集を行なっている。	担当職員によるセンター方式を作ったアセスメントをする。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握できており、ケアプランにも記載されサービスの内容にも活用されている。	こちら側から見た本人の生活だけでなく本人の生活だけでなく、本人自身の体感も取り入れていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングは、担当職員に行なってもらっており、担当者会議では、本人、家族、担当者、ケアマネで行なっており、計画書はそれぞれの意見が反映されている。	これからも本人、家族と共にお互いの意見、思いも出し合い計画書を作成していきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった時は随時見直されている。	実践されている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議の中で課題としてとりあげ、全体で共有し、その度に指導もしている。		記録の見直しを考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、知人との外出、趣味に関しての外出等個別に支援している。		地域からのニーズにも応じていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる活動がある。図書館を利用している。警察署に挨拶に行き徘徊者の連携についての話し合いを持ち協力体制が出来ている。		ホームのほうで取組んだ上で、地域包括支援センターにも、地域の方が集まる集会場等紹介してもらう。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣のグループホーム、介護保険施設のケアマネに定期的に挨拶に伺い空き状況など情報交換している。		行政独自のサービスを把握はしているが、担当者同士の交流はないので、今後は交流の場を設ける。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連携し、民生委員等との協力体制の構築ができています。		困難事例時も協力が得られ相談できる体制にする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関での受診を受けられるようにしている。		状況によっては、家族も同行し、医師との連携をとる。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診時特変あった場合等は細かな事柄でも丁寧に対応してくれる。		職員との学習の場を設けていきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医、看護師とは相談、報告等をし連携している。		職員との学習の場を設けていきたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医、看護師との情報交換を行い連携している。		入退院時は、家族を交え、情報交換し連携している。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、家族、本人への指針を伝え、家族本人の意見に沿うようにしている。		主治医と連携し対応していきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医、訪問看護師を連携し取り組んでいる。		取り組まれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の使っていた物、家具などで安心感を持っていただき、今までと変わらない環境作りをしている。		入居時は今まで使っていた馴染みの家具等を居室に配置して頂いている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々にあった話し方をしている。		個々にあった対応をし、排泄に関しても自尊心を傷つけないよう対応し心がけている。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	外出時、行事、食べ物など出掛けたい所、食べたい物を聞き、自己決定を促している。		出来る限り入居者の希望通り行動し対応している。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を通して時間に追われることなく、個々に自由に過ごされている。		個々に自由に過ごされる他、強制する事無く、今後もレク、買い物、散歩等日課に加えていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1度床屋さんに来ていただいている他、馴染みの美容室へ行かれる方も多い。		洋服、整髪、爪等へ常に気配りをし、職員が心がけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士によるカロリー計算された献立になっており、食事の支度、片付けは手伝いが好きな入居者と一緒に行なっている。		率先して手伝いをして頂ける入居者には仕度、片付け、買い物をしていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好に合わせた配慮をし、買い物は一緒に行き、本人へ選択して頂いている。		糖分管理をする。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	プライバシーの配慮、見守りをしている。		入居者によっては排泄パターンを把握し、おむつ使用の回数を減らしていきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1人1人入浴して頂き、見守り及び介助し対応している。		1, 2階入浴日が別なのでその日に入浴できない場合は別の階にて入浴できるようになっている。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の傾眠、夜間の不眠に対しては医師へ相談、指示を仰ぐ。		夜間の居室及び廊下の明かりを調整し対応する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合った作業、趣味、手伝い事などを行なえる支援をしている。		無趣味の方に対しての対応を担当職員交え対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時、本人へ財布を渡し支払いをして頂いている。		支払い時は、札だけでなく小銭も混ぜて支払いが出来るよう援助していきたい。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩し、歩いていける距離の店までは一緒に買い物へ出掛ける。		出掛ける際、付き添われることを嫌がる入居者に対しての対応を検討する。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに出掛けたい場所を個々に聞き、遠方へと出掛けている。		希望に叶うよう出掛けている。また少人数の行動の場合もある。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる方には直接かけて頂き、そうでない場合は、職員が対応している。		いつでも家族と話せるよう対応していきたい。
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪される方には、個々の居室にて談笑されたり、また他入居者ともリビングで談笑されたりしている。		取り組まれている。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書を文書にて説明し、家族より了解を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけていない。		取り組まれている。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の居場所を把握している。		今後も入居者への目配りをし対応していきたい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、ナイフ等本人へは持たせず（入居時同意を得ている）使う際渡している。		使用状は見守りをしている。包丁は施錠可能な場所に保管している。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急マニュアル、連絡網が職員の目の届くところに貼ってある。		行方不明、火事等の例がないため、緊急時慌てず対応していきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命講習を受講している。		前回の講習から2年経ち職員の入れ替わりもあり再度受講する。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行なっている。		2回のうち1回は夜間想定実施している。近隣からの協力を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時は状況報告し、その他特変あった場合は電話連絡している。		取組まれている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態変化時は、その状況によって初期対応し、主治医へ連絡し報告後、指示を仰ぐ。		夜間でも緊急連絡網により対応できるようにしている。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに保管し、内容を把握できるようにしている。		副作用による入居者の体調異変等に
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々に合わせた水分摂取量と毎日の排便チェック批評による確認を行なっている。		天気のいい日の散歩、毎日のラジオ体操による運動
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後機械等洗浄やうがいを行なっており、夜間は洗浄剤を使用している。		今後も習慣にし行なっていきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立になっており、個々にあった水分摂取を行なっている。		栄養士との話し合いで量の調節や季節の食材などを取り入れてもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを目の届く所に貼っており、市からの感染予防お知らせ文も回覧している。		季節ごとの感染症、予防に関してその都度職員間で意識し消毒している。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	介護と食事時のエプロンを別にし、毎食後タオル類を漂白している。		夕食後は、まな板も漂白剤し、衛生管理に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先、ホーム前の町会の花壇に入居者と一緒の水遣りを行い、散歩中近隣の方々と挨拶を交わし、馴染みの方もいる。		玄関先に気軽に見学して頂くために看板を設置している。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けをし、出窓には季節の花、観葉植物を置いている。		夜間、光は駐車場ののみにし、2階の音が響かないよう夜間は履物を変えている。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて談笑されたり、塗り絵をされたり、寛げる空間がある。		入居者同士の部屋を行き来し、仲間作りができています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時、本人の使い慣れた家具等持参して頂いて いる。		居室の配置が同じで間違ってしまうことが あるので、目印になる物を入り口につける。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	入居者の希望を伺い、希望に沿った温度、湿度に なるよう心がけている。		取組まれている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	玄関、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置され ておりトイレは車椅子のまま入れる広さを確保し ている。		車椅子は1, 2階に1台ずつ確保している。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレ、浴室、居室と分かるように絵、暖簾、飾 り付けで対応している。		取組まれている。
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	ホーム前の花壇の水遣りを職員と一緒に 行なう事が雨天時以外の日課になっている。		水遣り、掃除を行なうことにより近隣の方々と顔 見知りになり、毎朝挨拶を交わすことが楽し みに なっている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

清潔の保持として、毎日の足浴、陰部清拭 入浴時はブラックシリカ（岩盤欲）を使用（美肌、乾燥肌、冷え性、水虫、老化防止、腰痛等に効果あり）